

平成22年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成	
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成	
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成	
2 今年度の重点目標	1 キャリア教育の充実	3 危機管理体制の整備
	2 特別支援教育の推進	4 生涯学習講座の運営
3 昨年度の成果と課題	1 情報管理を含む危機管理マニュアルを作成し、体制を整備。定通共通目標の進路決定率55%以上は達成したが、今年度は更なるキャリア教育の充実を図る。	
	2 学校や行事、PTA総会の出席率、図書貸し出し冊数等、目標をクリアできなかったものに対しては検証・分析を行い、働きかけに努める。	

評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: あまり達成できなかった D: 達成できなかった

領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	開かれた学校づくりの推進 信頼される学校づくりの推進	学校評価の実施と活用 学校関係者評価の導入と活用 教育公務員としての倫理観の涵養	B	学校評価の仕組みを定着させることができた。校内倫理委員会を開催し、充実した研修を行うことができた。	一人1台パソコン配備、校内LANネットワーク切替え完了に伴い、環境整備と教育情報資産の管理徹底を図る。	B	・学校側との情報交換が密になり、生徒や教育活動全般に対する理解が深まった。 ・卒業生の保護者は感謝している人が多く、信頼は厚いものがある。
学習指導	確かな学力の育成 確かな学修の保障	授業評価の実施と活用 シラバスの作成と活用 面談・添削を通じた学習意欲の喚起	B	シラバスの活用は徹底してきた。生徒面談を重ねて学習意欲の喚起に成果をあげた。	年二回の授業評価を実施したが、その活用法についても全体で協議する必要がある。	B	・就職の際の学科試験に対応できる基礎学力を身につけてさせてもらいたい。 ・「心」の教育についても、力を入れてもらいたい。 ・引き続き生徒面談の充実をお願いしたい。
生徒指導	心に響く生徒指導の実践 特別活動の充実	H R活動や行事を通じた協調性の涵養 生徒会活動や部活動を通じた自主性・責任感の育成	B	問題意識を持つ生徒会役員が増え、主体的な生徒会活動が行われた。地域貢献活動が課題である。	年間を通じて、H R委員を中心にクラスで分担して実施する清掃活動のような、地域貢献活動の充実。	B	・学力、部活動、ボランティア等で学校全体の評価を高める努力をさらに望む。 ・霞城祭・通教祭への参加者を増やす方策を考えてもらいたい。 ・社会の一員としての自覚を育ててほしい。
進路指導	キャリア教育の充実	進路情報提供と進路ガイダンスの実施 健全な職業観・勤労観の育成 卒業予定者の進路決定率の引き上げ	B	企業の学校訪問を受け入れ、内定獲得につながった。学校の企業訪問は思うように求人獲得に繋がっていない。	企業の学校訪問の更なる積極的な受け入れ。保護者や同窓生などを活用した進路学習の推進。	B	・進路実績がそのまま評価につながるので、継続した指導を望む。 ・就職については、OBとの連携を望む。 ・面接指導を早期から実施してほしい。
健康安全指導	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの改訂 防災・不審者対策の訓練・研修の実施 医療相談機関との連携の強化	B	防災・不審者対策訓練等を8回実施した。新たに学校安全計画を策定した。	訓練による指摘事項の改善を危機管理マニュアルに反映し、常に不測の事態に備える。	B	・入校許可証の活用を遺漏なく行ってもらいたい。 ・危機管理マニュアルを改訂したり、防災訓練の実施が適切である。
家庭・地域との連携	保護者や地域への情報発信 生涯学習講座の充実	「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 学校評議員制度の活用 魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	各「通信」とも定期的に発行した。生涯学習講座の受講者を増加させる。	生涯学習講座への受講者増加を図るためのPR、講座内容の検討を図る。	B	・随時、適切な情報が発信されている。 ・通信の発行が保護者へのアピールになっている。 ・生涯学習講座の参加者が減少。講座についてのPRについて、工夫・対策が必要。
特別支援教育	文部科学省委託「特別支援教育総合推進事業」の推進	研究体制の確立と研究会・研修会の実施 配慮の必要な生徒への指導体制確立 個別支援チームの結成	B	実施計画どおりに研究会や研修会を開催し、最終報告会は高い評価を得た。個別支援を充実させる必要がある。	2年間の研究成果を引き継ぎ、支援体制の定着、「実践事例集」の活用等、教育活動全般への浸透を図る。	B	・多様な生徒が入学してくる現状に鑑み、重点的に取り組んでほしい。 ・カウンセリング回数が減るのは残念だが、適切に運用し密度の濃いものにしてほしい。